

「中央アジア＋日本」対話・第9回外相会合
共同記者発表 林外務大臣御発言

- 本日、中央アジア5か国の外務大臣をお迎えし、「中央アジア＋日本」対話・第9回外相会合を開催いたしました。東京での開催は2012年以来10年ぶり3回目となりますが、中央アジア5か国の外相にそろってお越しいただいたのは今回が初めてです。本年は日本と中央アジア5か国の外交関係樹立30周年の記念すべき年でもあり、大変うれしく思います。
- 日本は、2004年に世界に先駆けて中央アジア5か国との枠組みである「中央アジア＋日本」対話を立ち上げ、各国の国造りに協力してきました。
- 中央アジア5か国は着実な経済発展を遂げてきました。しかし、ロシアによるウクライナ侵略を始めとする国際情勢の激変により、中央アジア諸国は、多くの課題に直面しています。
- このような状況の中、今回の外相会合では、中央アジア諸国が持続可能な発展の達成に向けて、従来の取組に加え、新たな発展モデルを模索している中、日本が、特に、「人への投資」、「成長の質」に重点をおいて連携を強化することにより、中央アジア諸国がバランスの取れた外交を展開できるようにお手伝いしたいということをお話しました。
- 「人への投資」については、これまで実施してきた若手行政官等の本邦留学を支援する人材育成奨学計画（JDS）や国費留学を始めとする各種協力について高い評価をいただくとともに、JICAとカザフスタンのK a z A I D（カズエイド）及びウズベキスタン対外移民労働庁の間でそれぞれ協力覚書が署名されたことを受けて、今後の協力進展への期待が示されました。
- また、現下の情勢により、各国からロシアへの労働者が種々の困難に直面している中で、我が国の特定技能制度や技能実習制度等の活用も含め、中央アジア諸国の人材が日本での経験を活かして、母国の経済発展に貢献するという好循環を創出する可能性についても議論しました。

- 「成長の質」に関しては、これまでのアラル海周辺地域への環境分野での支援や新型コロナ対策支援への謝意が各国から表明されました。また、我が国が脱炭素分野で進める二国間クレジット制度（JCM）を紹介し、各国から関心が寄せられました。また、厳しい国際情勢を踏まえ、ロシアを経由しない輸送路である「カスピ海」ルートについても今後の協力の方向性について意見交換を行い、来年第1四半期に「中央アジア＋日本」対話の枠組みで本件についてシンポジウムを開催し、さらに議論を深めることで一致しました。
- また、中央アジアと隣接するアフガニスタンの情勢を含め、地域の不安定化リスクへの対処のための協力についても議論し、アフガニスタンをテロの温床とせず、女性や少数民族を含む全てのアフガン人の権利の尊重、包摂的な政治体制の構築が必要との点で一致しました。各国からは、先週発表した中央アジア5か国を対象とする暴力的過激主義防止のためのコミュニティ強靱化及び域内協力を促進するための6億円規模の無償資金協力並びに国境管理や国境地域の生活改善分野における日本の累次の支援への謝意が表明されました。
- 会合の成果として、この後、ワーキング・ランチ終了後に、共同声明を発出する予定です。
- ワーキング・ランチにおいては、ロシアのウクライナ侵略への対応や中国、北朝鮮を含む東アジア情勢を始めとする国際情勢について率直な意見交換を行うとともに、法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序の維持・強化に向けた日本と中央アジア諸国との協力についても議論を行います。
- ありがとうございます。

（了）